

【2】 計画策定へ向けた子ども・若者の意見反映の取組

「子ども・若者総合計画(令和7～11年度)」の策定にあたっては、令和5年11月に実施した「子ども・若者の実態・意識に関するアンケート調査・ヒアリング調査(p32～p57)」の他、以下の取組を行いました。

1

新たに「子ども・若者総合計画(令和7～11年度)子ども版」を策定

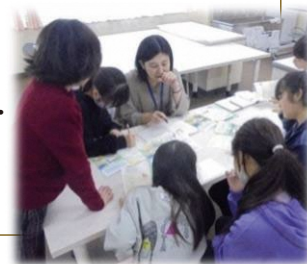
1 子ども版概要

- 内 容:子どもにとって身近で親しみやすい施策を選定し紹介
- 対 象:小学4～6年生及び中学生
- 編集方針:子どもが基本理念である“「自分らしく成長する」意欲”や“豊島区で暮らす安心感”を持つことを目指す「エンパワーメントツール」



【子ども版案策定へ向けた意見聴取の実施概要】

年 月 日	令和6年11月26日、27日
実施方法	子どもスキップで子ども版のたたき台により区職員が意見聴取を実施。
対象者数	3年生1か所2名・ 4年生3か所7名・ 5年生3か所10名・ 6年生3か所4名、 合計23名



策定のポイント

計画の理念を区政において具現化するため、子ども版の案段階から子ども等の意見を反映し作成

- | | | |
|-------|---------------|--------------------------|
| ポイント① | クイズ形式による計画 | ▶ 子ども等の興味を誘引 |
| ポイント② | 子ども等への適切な情報提供 | ▶ 居場所や相談窓口など必要な情報を掲載 |
| ポイント③ | 多面的な意見聴取 | ▶ 放課後児童施設での意見聴取や、アンケート実施 |

子ども版策定における子どもの声の反映

様々な子ども・若者たちの意見を踏まえ、子ども版のブラッシュアップを実施

具体的な子ども等の声

クイズの聞き方は「できないこと」を聞くのではなく、「できること」を聞いた方がよい。

ジャンプでドラムや料理をやってみたい。どんな施設なのか知りたい。

面白そうな施設があることは分かったけど、両親に連れて行ってもらうには、場所など詳しい情報も載せてほしい。

反映

反映

反映

計画への反映概要

クイズの形式を変更
(反映後)
中高生センタージャンプでできること
はどんなこと？

ジャンプの料理室や
ライブの写真を掲載



各施設のアクセス等について、
二次元コードを追記し、子どもの次の行動へのフォロー

1 小中学生

計画子ども版の案により、区立小中学生へのオンラインアンケート調査を実施しました。

【実施概要】

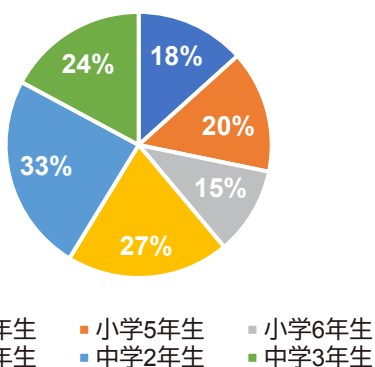
年月日	令和6年12月20日から令和7年1月17日まで
実施方法	教育委員会と連携して子ども版の計画案を区立小中学校生徒のタブレットへ送付し、オンラインアンケート調査を実施
対象者数	小学4～6年生 22校4,635名・中学生 8校2,775名、合計30校7,410名
回答数	1,603名（回答率21.6%）



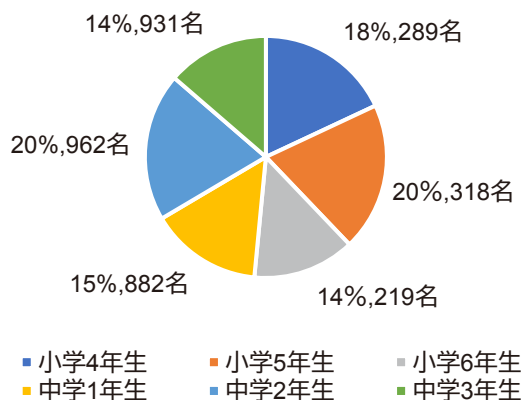
【アンケート調査結果概要】

●回答者属性

学年別回答率



学年別回答者数(n=1,603)



●意見概要

【豊島区の施策について】

- ・困っている子どもたちのために身近な相談窓口などを考えるきっかけとなるようにしてほしい。
- ・子ども版は、子どもの権利について考えるきっかけになると思う。
- ・子ども版により、豊島区が自分たちのことを考えてくれると感じることができると思う。
- ・家で勉強がしづらい小学生のために集中して勉強できる施設をつくってほしい。
- ・ジャンプやスキップといった施設が多くあるとよいと思う。
- ・家の近くにボール遊びができる公園がほしい。

【子どもへの計画の広報について】

- ・クイズに答えだけでなく解説があるとわかりやすい。
- ・カラーでイラストがあると見やすいと思う。
- ・表紙が見やすいと、内容をみたくなると思う。
- ・漢字全てにふりがながあると読みやすい（外国ルーツの子どもから）。
- ・地図を付ける等して具体的な情報がほしい。
- ・中高生向け施設があることを知り、中学生になるのが楽しみです。



2 中学生

計画子ども版の案により、区職員が中学生センタージャンプで聞き取り調査を実施しました。

【実施概要】

年 月 日	令和6年12月20日
実施方法	ジャンプ東池袋で子ども版の計画案により区職員が意見聴取を実施。 ※ジャンプ長崎で予定していた意見聴取はインフルエンザ感染予防のため中止
対象者数	中学生1か所4名・高校生1か所6名、合計1か所10名

【アンケート調査結果概要】

●意見概要

【豊島区の施策について】

- ・子ども版は、区の政策に関心を持つきっかけになると思う。
- ・区をよりよくするために様々なことを考えていきたいと思う。
- ・子どもが知らない行政情報は多くあると思う。それらを伝えていくとよいと思う。



【子どもへの計画の広報について】

- ・表紙が面白いと見たい・読みたいと思う、具体性があつたほうがよい。
- ・伝えたいことをしっかりと整理し、目立たせることが大事だと思う。
- ・伝えたいことを子どもがどう考えるか、子どもの声をいれるといいと思う。
- ・ページ数や文字の量等の情報量は、より細かく対象に併せて考えられるといいと思う。
- ・写真を入れたら、その写真が何を伝えたいのか、キャプションをつけたほうがいいと思う。
- ・クイズは「できないこと」より「できること」を設問にするほうがいいと思う。

3 若者（立教大学×豊島区 あなたと共につくる 子ども・若者のまちづくり意見交換会）

大人と若者が、政策についてともに考え、意見を共有し、若者が区の計画に主体的に関われるよう、改善案やアイデアを検討しました。

【実施概要】

年 月 日	令和6年12月18日
実施場所	立教大学新座キャンパス4号館会議室
参加者数	12名(学生5名、教員4名、区職員3名)



立教大学×豊島区
あなたと共に未来をつくる
子ども・若者のまちづくり意見交換会

12月18日（水）17:20～18:50 新座キャンパス 4号館 N422教室

豊かで住みやすい地域を実現するためには、そこに暮らす若者の意見を共有し、まちづくりに反映させることが欠かせません。

今回、立教大学コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科では、豊島区と共に「豊島区子ども・若者総合計画」の策定に向けた意見交換会を開催します。

【企画について】
豊島区では、子どもや若者が安心して暮らし、希望をもって未来を築けるように、様々な施策に取り組んでいます。その方針を基盤として「豊島区子ども・若者総合計画」を策定しており、現在策定を行っています。この意見交換会を通じ、子どもや若者層についての情報を収集するとともに、若者の視点・意見を計画に盛り込みたいと考えています。当日は豊島区より子ども・若者施策についてお話しいただきます。その後、ワークショップ形式で意見交換を行います。

【参加対象・申し込み】
この意見交換会は、豊島区在住・通学する、立教大学の全学部・全専攻の学生を対象としています。参加を希望する学生は、Google Formにてお申し込みください。

申し込みURL: <https://forms.gle/1Z5W/baM7tYd6xtd8>
(下記のQRコードからもアクセスできます)

主催：立教大学コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科
共催：豊島区
司会：中野 希樹 先生（コミュニティ福祉学部 兼任講師）
お問い合わせ：03-77979900@kaiyodai.ac.jp

申し込みは
こちらから！

【意見概要】

●豊島区の子ども・若者政策について

- ・豊島区が実施する子育て支援策について、就職や結婚を視野に入れた住環境を検討するにあたり関心はあるが、情報にアクセスしづらいと感じている。また、都市特有の騒音や住環境が子育ての困難さのイメージを助長していると思われる。その点に配慮した広報等が必要と思う。
- ・将来についての相談相手は、パートナーや友人に相談する、自問自答するなど、個々のスタイルによるが、同世代の中での問題意識や課題の共有が主であるので、より広く社会で課題共有されるための施策が必要とされているのではないか。
- ・家庭内の問題(宗教的背景、家庭内暴力、アルコール依存症など)に気づかれず苦しんでいることもあると思う。家庭を支援できる仕組み作りをしてほしい。
- ・子どもを支援することは子どもを育てる人を支援することで、子どもを育てる人とは社会全体だから全ての人に関係することだと思う。子どもを支援する施策は、単に当事者のみを対象にするのではなく、社会全体を巻き込んだ仕組みが必要だと思う。
- ・自主的に集められる意見が少ないこと＝若者が興味関心を持っていないこと、ではないと思う。大人へ意見や考えを気軽に発信できる機会が少ないこともあると思う。大人と子どもが直接意見交換できる場の創設が必要であると思う。
- ・若者のアンケートの回答率が低いこと、自分が役に立たないと感じることは、「自分がみんなの居場所をつくる」という意識と関連すると思う。個々人が抱く目標や願望が、何かしようという原動力となると思う。子ども・若者が、自分の目標ややりたいことに気づくことができるきっかけづくりをしていくことも、主体性を涵養(かんよう)していくのに資するのではないかと思う。

●大人と子どもがともに政策を考えることについて

- ・豊島区の政策について新しく知ることばかりであり、他の学生の考えを聞きながら政策を知るとは面白かった。より掘り下げた施策内容についても議論できる機会があるといいと思う。
- ・区の職員と直接対話できる機会はなかなかないので、とても良い体験となった。
- ・他者の意見や異なる考えを知ることで視野が広がる体験が得られ、有意義な場だった。
- ・大学生として社会や制度に意見ができたことがとても嬉しかったので、このように異なる立場の方と意見交流し、社会参加の実感が得られる企画がより多くあると良いと思う。